

## 欠席委員意見要旨

## 【高橋委員】

- あいちトップアスリートアカデミーについては、全国大会等に選手が出場するなど、成果が表出している競技もあるため、こうした競技が増えていくよう、さらなる取組を期待したい。成果が現れることで、前向きになる競技団体も増えていくと思うし、県として一枚岩となり、取組を進めていくことができるようになると思う。
- また、あいちトップアスリートアカデミーについて、取組の対象となる競技を増やしていただきたい。選手の競技への適性は、一つでも多くの競技から検討し、見極めていくことが重要であると思う。またジュニア世代にとっても、選択肢が増えることは望ましいことだと思う。
- 大学は施設や指導ノウハウを持っていると思うため、今後も様々な形で、行政との連携事例が増えていければと感じている。また、選手を医・科学の視点でサポートすることも大切。その点、大学院を持つ大学は、科学的な視点でのアドバイスやデータ獲得が可能であると思う。また、医系の大学とも連携し、医学的なアプローチが取れるようにするなど、各大学の強みを活かす形での連携となることが望ましい。
- 競技団体の競技運営能力については、団体ごとに乗り越えるべきハードルが異なると思う。国際大会に慣れていない団体については、特に働きかけが必要。例えば審判は、ルールブックだけではない、国際大会における最新のトレンドを踏まえる必要がある。国際大会に派遣することや、実際に大会運営に携わることを通して、こうしたことを学び、経験値を上げていく必要がある。
- 大学生は意欲的であるため、積極的にPRすることで、アジア競技大会・アジアパラ競技大会への協力を引き出していくべきであると思う。体育系の学生のみならず、語学を学ぶ学生は選手団への対応など様々な場面において頼りになると思うし、学生自身の良い経験になると思う。
- 子どもの体力の低下傾向と、団地の増加には相関があるようだ。団地の場合、学校から帰ると外に出ることが億劫になる子どもが多いのではないかと考えている。その対策としては、まずは家の中でもできる運動・スポーツを周知していくことである。場合によっては身体を動かすようなゲームも、きっかけとしては有効であると思う。運動・スポーツの楽しさに触れることで、次は外で、というステップを踏むことが重要ではないか。

- 部活動の指導に携わりたいために教員を志す学生も多いが、地域移行が議論されていることを受け、進路選択に迷いが生じたと相談を受けることも多くなった。地域移行に向けては、様々な在り方が検討されているところかと思うが、是非、学生の意欲も踏まえて、検討が進むことを期待したい。

## 【中嶋委員】

- 素案には障害者スポーツに関する取組が網羅的に整理されており、有難いと感じている。引き続き、取組の充実に向けて県等と連携しながら取り組んでまいりたい。
- 先日、愛知県選手団として全国障害者スポーツ大会に参加したが、競技会場までの交通手段や会場の設備など、バリアフリーという意味ではまだまだ改善の余地が多いと感じた。スポーツに日常的に取り組む上でも、施設までの移動のしやすさは非常に重要になると思う。
- その点、2026年に開催されるアジアパラ競技大会は大きな契機となる可能性があると思う。大会を通じて、人々の意識の変化や、競技施設等のバリアフリー化が進むことを期待している。
- 障害者スポーツ指導員養成事業を実施しているが、スポーツ施設や福祉施設の方に限らず、学生や一般の方を含め多くの方に受講していただいている。ただ、資格を取った後に活動につなげていくことが重要。イベントや大会の多くは土日に開催され、指導員はボランティアとして参加することとなる。多くの方の協力をいただき、大会やイベントが運営できているが、いかに継続的に参加していただくかを検討していく必要がある。